

日露原潜解体協力（「希望の星」）

平成 15 年 4 月 10 日

外務省軍備管理軍縮課

1 . 経緯

- 92年 7 月 「ロシアの非核化努力支援」政治宣言（ミュンヘンサミット）
- 93年 4 月 宮沢総理、1 億ドルの無償支援供与を表明（G7合同閣僚会合）
- 93年10月 日露二国間協定により「日露非核化協力委員会」発足。
- 99年 6 月 小渕総理、総額 2 億ドル相当の非核化協力プロジェクトへの協力を表明（ケルンサミット）
- 03年 1 月 小泉総理、極東における原潜解体支援事業の重要性を指摘。
同事業を「希望の星」と命名し、推進を表明（訪露時演説）。
日露首脳により採択された「日露行動計画」の中にも明記された。

2 . 実施済み又は計画中の主なプロジェクト

- （ 1 ）低レベル液体放射性廃棄物処理施設「すずらん」
 - ・ 極東での退役原潜解体などにより生じる液体放射性廃棄物処理施設の建設（41億5000万円）
 - ・ 00年 4 月完了、01年11月引き渡し式典
- （ 2 ）原潜解体支援
 - ・ ウラジオストク近郊で行われるロシア退役原潜の処理及び廃棄に協力
 - ・ 本年 1 月の「日露行動計画」にも盛り込まれたほか、カナナスキス・サミットにおいて打ち出された「G8グローバル・パートナーシップ」の文脈上も重要
 - ・ 第一弾として、ヴィクター 級原潜解体の実施を決定。現在、実施取り決め締結に向けてロシア側と交渉中

（参考 1 ）「日露行動計画」関連部分抜粋

「...両国は、ロシア連邦における核兵器の廃棄に関する協力のために設置された日露委員会の枠内で決定されたプロジェクトの実現を加速するため、活動の調整メカニズムを強化する。両国は、ロシア連邦の極東地域の退役原子力潜水艦解体プロジェクトの着実な実施を確保する...」

（参考 2 ）「G8グローバル・パートナーシップ」

大量破壊兵器及び関連物質の拡散防止を目的とし、まずロシアを対象として、不拡散、軍縮、テロ対策及び環境を含む原子力安全に関するプロジェクトについて、G8 を中心に協力を実施する構想。02年 6 月、カナナスキス・サミットで発表。

99年05月 政府「軍縮と環境保護のための日露共同作業」発表。

03年01月 小泉総理、訪露時の演説で極東における原潜解体支援事業の重要性を指摘。同事業を「希望の星」と命名

(1) 経緯

以下の原潜解体関連プロジェクト調査を決定。

(1) 使用済核燃料搬出・一時貯蔵施設の建設

(2) 使用済核燃料輸出のための鉄道改修

(3) ヴィクター 級原潜 1 隻の解体

(4) 使用済核燃料輸送タンカー「ピネガ」の改造

03年01月 小泉総理、訪露時の演説で原潜解体支援事業の重要性指摘。

同事業を「希望の星」と命名し、事業の推進を表明。

(2) 現状

上記案件中、(2)(3) について、実施に向け協議を実施中。

(3) : 4 月中に事業実施取り決めに締結、5 月に着工式を開催予定。

(2) : 現地調査実施済。4 月下旬から協議再開予定。